

# ミドルリーダーによる経験学習モデルを活用した校内研修に関する研究 ～研究主題に則した授業改善を目指して～

学籍番号 17AX004

氏名 片桐 大樹

## 要 旨

校内授業研究において、研究主題を設定し授業改善を行っていく取組は多くの小学校で行われている。こうした取組の中で課題として挙がることの一つに「研究主題を全教職員で理解・共有しての授業改善が難しい」ということがある。

横浜市立I小学校（以下、「I校」と称する）は、この課題の解決に取り組みながら授業研究を推進している学校である。しかしながら、I校は経験の浅い教員が多く、ベテランの教員が少ない職員構成であり、「ベテラン教員の授業を参観したり、ベテラン教員から授業の指導法を学んだりする」という組織文化が変わり始めている。この状況が課題解決の難しさの一因ともなっている。そして、I校のような職員構成は横浜市立学校の多くに見られる傾向である。

このような状況において横浜市教育委員会は「メンターチーム」の導入・実践を推進してきた。メンターチームとは、「複数の先輩教職員が複数の初任者や経験の浅い教職員をメンタリングすることで人材育成を図るシステム」である。このメンターチームの取組から、I校の課題の解決の知見を得ることができる。その知見とは、「経験学習モデル」、「ミドルリーダーシップ」、の2つである。

これらのことから、本研究では、I校の校内授業研究の研究主題に則した授業改善のために、「ミドルリーダーによる経験学習モデルを活用した校内研修」の実践と評価を行い、授業改善のための校内研修に効果的な視点を検討した。その結果、I校では校内授業研究の研究主題に則した授業改善がなされたことが示唆された。また、授業改善のための校内研修においては、ミドルリーダーが内省の活動を促したり、ミドルリーダーが中間概念を形成する力を高めたりすることが効果的であると示唆された。

第1章ではI校の授業研究の実態と課題について述べる。その課題について解決のための知見を得るために、第2章では先行研究を整理する。ここまでの本研究における「理論編」に当たる内容である。第3章では研究目的を提示し、第4章において具体的な課題解決の方法を述べる。この第3章、第4章が「実践編」である。第5章では本研究・実践の評価について整理し、第6章で結果と考察を述べる。これらは、「評価編」の内容である。第7章は、まとめと今後の課題、第8章は自身の実践家としての変容を述べる。これらが「まとめ編」となる。